

おこうだより

特集

高知発「先端医療」



合同慰霊祭

第15号 平成30年3月

高知大学医学部

おこうだより第15号 目次

巻頭言「Art and Science」	医学部長 菅沼 成文	1
附属病院長新任のご挨拶	附属病院長 執印 太郎	3
特集記事 高知発「先端医療」		
ハイブリッド手術室稼働について	外科学(外科2)講座 教授 渡橋 和政	4
光線医療センターキックオフについて	医学部附属病院光線医療センター センター長 花崎 和弘	
	医学部附属病院光線医療センター副センター長 井上 啓史	6
新任教授紹介		
高知大学医学部神経精神科学講座教授就任のご挨拶	神経精神科学講座教授 数井 裕光	8
平成29年度学生対象の防災訓練について	学生災害対策室協働WG副委員長 看護学科教授 森木 妙子	9
同窓会の取り組みについて		
平成29年度医学部同窓会活動報告	医学部同窓会会長 廣瀬 大祐	11
看護学同窓会の役割	高知大学看護学同窓会会長 寺下憲一郎	13
学生の活動		
第60回日本腎臓学会総会において優秀演題賞を受賞		
IL36受容体欠損マウスでは急性腎障害AKIの予後が改善し、 尿中IL-36は新規バイオマーカーとなりうる	医学科3年生 間崎 護	14
学生関係行事(写真掲載)		17
留学体験		
Summer Medical Education Institute report	医学科5年生 田村 友里	23
第64回よさこい祭り 醫一KUSUSHIー	くすし代表 看護学科3年生 宮崎 皓也	25
第37回南風祭を終えて	南風祭実行委員会委員長 医学科2年生 山内 滉也	27
課外活動紹介		
高知大学医学部 準硬式野球部	医学科3年生 高村 洸輝	29
高知大学医学部 ラグビー部	医学科3年生 市川 天彦	31
医学部 華道部	医学科3年生 西村 直子	33
フィールド医学研究会について	医学科5年生 吉本 大治	35
平成29年度医学部後援会被表彰団体・個人一覧		37
その他		
平成29年度「白衣授与式」の実施について	学生課長 立花 広枝	38
平成29年度合同慰霊祭	学生課長 立花 広枝	39
追悼の言葉	学生代表 医学科2年生 菅田 夏央	40
医学部准教授講師会の活動		
「KMSリサーチミーティング」	医学部看護学科准講会副会長 松岡 真里	41
「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017 高知(RFLJ)」の実施について		
	RFLJ実行委員会委員(病院機能強化戦略推進室) 楠瀬 伴子	43
資料		
平成29年度入学試験(H27~29年度 志願者・受験者・入学者数一覧)		44
平成29年度学生数		45
医師国家試験・保健師・看護師・助産師 国家試験合格状況		46
編集後記	おこうだより編集委員会委員長 井上 啓史	50

巻頭言

「Art and Science」

医学部長 菅 沼 成 文

(平成30年4月1日就任)



高知大学医学部は前身の高知医科大学は1976年に創立、最初に医学科の学生を受け入れた1978年からは40年を迎えます。一人の医師が活発に社会に貢献

できる期間は40年から50年だろうと思われま。数年ずつを屋根瓦のように重ね合いながら、師から弟子へと技能が伝えられていく実力の世界で、不惑の年に、国立大学法人の医学部として果たすべき役割を原点に立ち返って見つめ直し、次の40年を見通した人材育成を進めて参ります。一方、1998年に開設された看護学科は大凡半分の歴史ですが、日本最初の四年制看護大学である高知女子大学（現高知県立大学）に追いつき追い抜こうと不断的努力を続けています。

鶏口牛後という言葉がありますが、全世界あるいは日本全国の医学部を眺めてみて、大規模大学ではない高知大学医学部は、まさに鶏です。高知で鶏といえば、軍鶏、闘う鶏です。大きなもの後ろについて行くのではなく、小さいといえども、その嘴となり、先駆者となってこそ、新しい時代を切り開いていくことができます。新しい時代は、決して、旧勢力の中からは出てきません。必ず、新興勢力がこれまでの規制やしがらみを突破していくところに、新しい潮流が生まれます。旧勢力が動くのはその後です。そうして世の中が変わっていきます。

高知大学医学部が始めた新しい取り組みの中で、全国的にも注目されているのが、家庭医道場と先端医療学コースです。家庭医療学講座は高知県の奇附講座として、阿波谷敏英教授の下、馬路村や

幡多地域を舞台に、医学生や看護学生に地域医療を学ぶ場を提供しています。地域医療といえば高知大学、というイメージは阿波谷教授と家庭医道場を通しての地元密着型教育の賜物であると言えます。一方、本家孝一研究・医療担当理事が主導されてきた先端医療学コースは学部学生が研究室に2年生の時点から入り込み、最先端の研究に主体的に参加し、新たな知の発見・創造に関与できるという全国でも希に見る取り組みです。地域医療と先端医学という、一見すると全く関係のない二つの内容で、医学生の新しい教育の在り方を提案しています。

この先端医学と地域医療、端的に言って、医学と医療は、講演集「平静の心Aequanimitas」に残されているウイリアム・オスラーWilliam Oslerの言葉にあるサイエンスとアートであり、表裏一体のもので。すなわち、医療の実践は科学に基づくアート “The practice of medicine is an art, based on science” です。高知という地域において医療を実践するということと、その裏付けとなる医学の探究を疎かにしない医学教育。そのアートとサイエンスの両面において、高知大学医学部は特色ある取り組みを続け、医学教育の本質を見つめつつ、新しい形を提案しているのです。

私たちが探求する医学は最古の学問であり、私たち人間自身の健康に関わる学問として、切実な思いで診断と治療の研究が進められてきました。一人一人の患者さんに出会い、真摯に向き合った経験の蓄積は、人類共通の課題への解決法を提示するものとして日本のみならず、世界の人々に福音をもたらします。日々の医療の実践と深化が世

界の医学の発展に直結しているのが、医学の醍醐味であると考えています。

開院以来の電子カルテ情報を分析する情報医科学、先端医学研究から臨床研究/臨床試験を通して実用化する道筋を支援する次世代医療創造センター、脳性麻痺に対する自家臍帯血を用いた臨床研究を始めとする再生医療への取り組み、光力学による悪性腫瘍の検出・治療、WT1ペプチドを

用いたがんの免疫療法、世界最大の出生コホートによる環境因子の影響調査（エコチル調査）など、高知大学医学部は、現代の医療の最前線に果敢に挑んできました。さらに、医工連携を始めとした学際的な研究によって、医療の地平は新たな広がりを見せています。開学40年を越えての高知大学医学部の新たな展開を共に目撃致しましょう。



附属病院長新任のご挨拶

附属病院長 執印 太郎
(平成30年4月1日就任)



この度、平成30年4月1日より病院長に就任いたしました執印 太郎（しゅういん たろう）と申します。

高知県は、高齢化および人口減少という大きな問題にさらされております。そのため、高知県として施策として進めているのが「日本一の健康長寿県構想」と銘打ち、県民が健康で豊かな暮らしを目指すというものです。

「健康長寿県構想」のために、高知大学医学部附属病院はどのような貢献ができるのか。この課題にどう向き合うのかと考えたときに、大学病院のあるべき姿として優れた設備のもとに高い機能を発揮し先進的な医療を行い、同時に優れた医療人を輩出することであると考えております。高知大学医学部で学び、医師、看護師を目指す学生の皆さんとの縁を大事にして、高知県の医療を支え

る人材として成長していただけるよう、お手伝いさせていただきたいと考えております。

現在、高知大学医学部附属病院は、再開発に向けた取り組みを行っております。まず課題として挙げられるものとして、第一病棟の改築があります。第一病棟は建築後、約40年経過した古い建物と設備を使っております。入院される患者さんからも改修を望む声が多く届いております。患者さんのみならず、そこで働く医療スタッフのすべての方に快適に過ごしていただけるよう、このことを目標として今後も政府へ働きかけを続けていきます。

再開発の基本理念は「地域に密着した先端医療の推進と高度医療人の育成」です。

今後も地域医療の発展や、医学教育に貢献できるよう誠心誠意尽力して参りたいと存じます。関係者の皆様には、今後ともご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。



ハイブリッド手術室稼働について

外科学(外科2)講座 教授 渡橋 和 政



昨年4月に、ハイブリッド手術室が稼働し始めました。従来の手術室10室に連続して増設された2室には、それぞれ高精細の透視装置、MRI装置が装備されています。

ハイブリッド手術室としては県内で3施設目ですが、遅れた分、他にはない新たな機能を盛り込んでいます。

術中にMRI撮影ができる『インテリジェント手術室』は県内初で、12月までに23件の手術が行われました(第68回NEUROSURGERYカンファレンスIN高知で紹介)。脳腫瘍の手術では、開頭中にMRIで確認しながら手術を行えるようになりました。一方、透視装置を装備した手術室では174件の手術が行われました。脳神経外科で血管内治療を中心に93件、心臓血管外科では主にステントグラフト治療で31件、呼吸器外科では透視を活用した胸腔鏡手術など12件、さらに循環器内科ではペースメーカーやCRTD、ICDなど

の植え込み19件などです。

高精細の透視には、近赤外線や超音波を絡めた『スーパーハイブリッド手術室』としての機能を持たせました。呼吸器外科では、透視装置のcone beam CT機能を用いて気管支ファイバーで病変にインドシアニングリーンと造影剤でマーキングしてから手術を行うことにより、見ても触れてもわからないほど微小な病変を正確に切除できるようになりました(第92回中国四国外科学会で発表)。心臓血管外科では、透視では見えない人工血管や大動脈壁を経食道心エコーで可視化しガイドワイヤを誘導するなど、X線と超音波のコラボを行い、その試みが4月開催のAortic Symposium(ニューヨーク)に優秀演題として採択されました。今後、高知大学から新たな情報を発信していける拠点の一つとなってくれと期待しています。





光線医療センターキックオフについて

医学部附属病院 光線医療センター センター長 花崎 和弘

医学部附属病院 光線医療センター 副センター長 井上 啓史

このたび、高知大学医学部附属病院は、平成29年4月1日、特殊光源を用いた光線医療技術を基盤とした診療・研究・教育を組織横断的に実践する「光線医療センター」（図1）を新たに開設しました。この光線医療センターは、日本初の本格的な「光線医療技術」を基盤とする先進的かつ独創的な組織です。外科Ⅰ（消化器外科・乳腺外科）、外科Ⅱ（心臓血管外科・胸部外科・形成外科）、皮膚科、眼科、脳神経外科、泌尿器科などの横断的な診療科における専門医が、特殊光源を用いた診療・研究・教育に当たります。

高知大学医学部および附属病院では、インドシアニングリーン（ICG）を用いた近赤外蛍光診断¹⁾に関して、ナビゲーションシステム HyperEye Medical System（HEMS）を開発し、乳腺外科においてセンチネルリンパ節の同定（図2）、心臓血管外科において冠動脈グラフトの術中血流の評価（図3）、消化器外科や形成外科において皮弁、末梢血管などの術中血流の評価（図4）など臨床実施しています。

もう一つの特特殊光を用いた光線医療技術である、5-アミノレブリン酸（5-ALA）を用いた癌検出

法である光線力学診断（PDD）²⁾に関しては、脳神経外科が脳腫瘍において、泌尿器科が膀胱癌（図5）において臨床実施しています。さらに現在は、消化器外科が胃癌の腹膜播種において薬事承認に向けた臨床試験を積極的に実施しています。

これら特殊光を用いた光線医療技術は、高知大学医学部から生まれた、まさに高知オリジナル、高知ブランドの研究開発事業です。これまで個々に取り組んできたこれら診療、研究、教育を、組織横断的に実施することにより、より独創的な光線医療の開発、実施、普及にあたるべく、センター設置に至りました。

高知県は、国勢調査においても高齢化率が2番目に高い県です。本センターは、高齢化先進県である高知県からの要望も踏まえて、患者さんにとって低侵襲かつ高精度な医療の実現に貢献します。また、新しい医療技術に触れた学生たちが、より篤い志を持った医療人として成長できる場となるよう光線医療の教育、普及にもあたります。さらには、国内外への普及のみならず、新たな低侵襲かつ高精度な光線医療技術の新規開発をも目指します。



図1 高知大学医学部附属病院・光線医療センター

1) インドシアニングリーン (ICG) を用いた近赤外蛍光診断: ICG を用いて、近赤外線 (780nm) で励起し、蛍光 (830nm) 発光によってリンパ節や血管を検出する診断。

2) 5-アミノレブリン酸 (5-ALA) による光線力学診断 (PDD): 5-ALA を用いて、青色の可視光 (375-445nm) で励起し、赤色蛍光 (600-740nm) 発光によって癌を検出する診断。



図2 インドシアニンググリーン (ICG) を用いた診断
-リンパ節・リンパ流の術中同定 (乳癌センチネルリンパ節)-

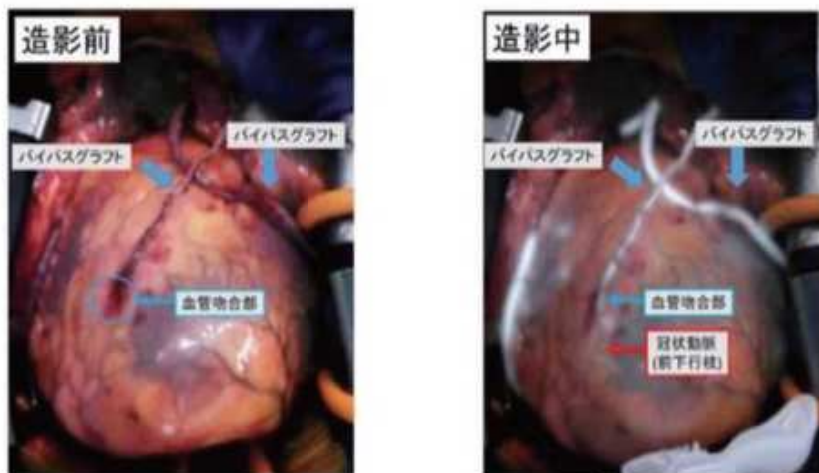


図3 インドシアニンググリーン (ICG) を用いた診断
-冠動脈グラフトの術中血流評価-



図4 インドシアニンググリーン (ICG) を用いた診断
-遊離空腸グラフトの術中血流評価-

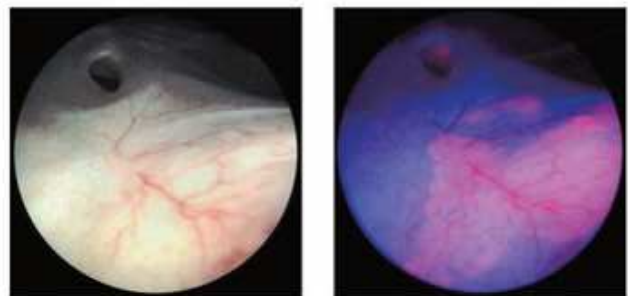


図5 5-アミノレブリン酸 (5-ALA) による光線力学診断 (PDD)
-膀胱上皮内癌 (CIS) の術中同定-

高知大学医学部神経精神科学講座教授就任のご挨拶

医学部神経精神科学講座 教授 數井 裕 光



この度、平成30年1月1日付で大阪大学大学院医学系研究科精神医学分野講師から高知大学医学部神経精神科学講座教授に就任いたしました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

私は兵庫県神戸市の出身で、平成元年に鳥取大学医学部を卒業し、その後、大阪大学神経科精神科に入局しました。私は、医学部学生の頃から脳に興味があり、「楽しい」、「興味が湧く」、「好きになる」というような複雑な感情が、どのようにして生じるのかを探求したいと考えていたため、1年目の研修医の時から神経心理研究室に出入りしはじめました。神経心理学とは、視覚情報、言語情報などの様々な外界からの情報が脳内でどのように処理され、認識にいたるのかという知識を基に、精神疾患の症状や病態を理解しようとする臨床分野です。様々な脳画像検査の開発とともに発展し、現在、統合失調症、気分障害、発達障害、認知症などに応用されています。2年目は、精神医学にどっぷりと浸かる前に、身体治療の基本を学びたいと考え、兵庫医科大学救命救急センターで研修を受けました。そして平成3年に大阪大学大学院医学系研究科（精神医学）に入学しました。大学院修了後は兵庫県の精神科中核専門病院、兵庫県立病院精神科で診療と臨床研究の経験を積み、平成14年に阪大病院神経科精神科に戻って参りました。その後、平成29年末まで阪大病院で教育、診療、研究活動を続けておりました。

阪大病院神経科精神科では、専門外来を受診した症例のデータベースを構築し、生化学、生理学、

放射線医学、脳神経外科学の医師と共同で研究を行ってまいりました。また学外の医師、研究者の協力もいただき、複数の多施設共同研究を主任研究者として行ってまいりました。私は常に「よりよい診断法、治療法の開発」にこだわっており、現在も「認知症の症状の中で改善可能な精神症状の治療法開発研究」、「認知症地域連携システム構築による治療研究」、「治療可能な認知症とされている特発性正常圧水頭症の自立を目指した早期診断法の確立研究」などを行っています。またAMEDの支援をいただき「認知症ちえのわnet」というwebsiteを構築し、運営しています。この活動はICTを利用し、集合知を活用する新しい医療モデルとして、また世界に貢献する日本発の研究活動として評価していただいております。これらの研究活動は高知県の認知症診療の維持、向上にも役立つと考えております。

高知大学神経精神科学教室は、私の兄弟子である池田学現大阪大学精神科教授のお父様、池田久男先生が初代教授であったというご縁もあり、これまで同門の先生方が築かれた伝統をしっかりと引き継ぎ、さらに発展させたいと考えております。また高知大学の発展、高知県の精神科診療の向上にも貢献できますよう教室員とともに努めてまいります。何卒ご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



平成29年度 学生対象の防災訓練について

学生災害対策室協働WG副委員長 看護学科教授 森木 妙子

学生の防災訓練については、看護学科では、学生・教職員を対象とした防災訓練を平成24年度から実施しております。平成28年度からは新たな取り組みとして、看護学科『災害発生時の避難について』のシートを作成し、看護学科棟の教室・実習室・トイレなど全部屋に貼り訓練を実施したところである。

本年度は、医学科と看護学科との合同で訓練を実施することを定め、課外活動団体災害医療研究会の学生を委員に含め学部災害対策協働WGで検討を重ね、医学科においても『災害発生時の避難について(資料1)』のシートを用いた防災訓練を11月17日(金)の11時45分から実施した。

訓練は、実習中の学年を除いた医学科1年生、2年生、3年生、4年生、看護学科1年生、2年生の約540人と教職員30人が参加した。

訓練の概要は、2時限目授業中の11時45分に土佐湾沖で巨大地震が発生したことを想定し、「避難訓練」や「点呼・安否確認」の訓練を実施

した。各授業担当教員は、学生は机の下に隠れ60秒間は動かず、その後、「図書館前に避難しろ」の指示のもと訓練を開始した。なお、授業担当教員には、前もって「フローチャート(資料2)やアクションカード」を提示し、初動時に何をすべきか。を明確化し訓練を行った。

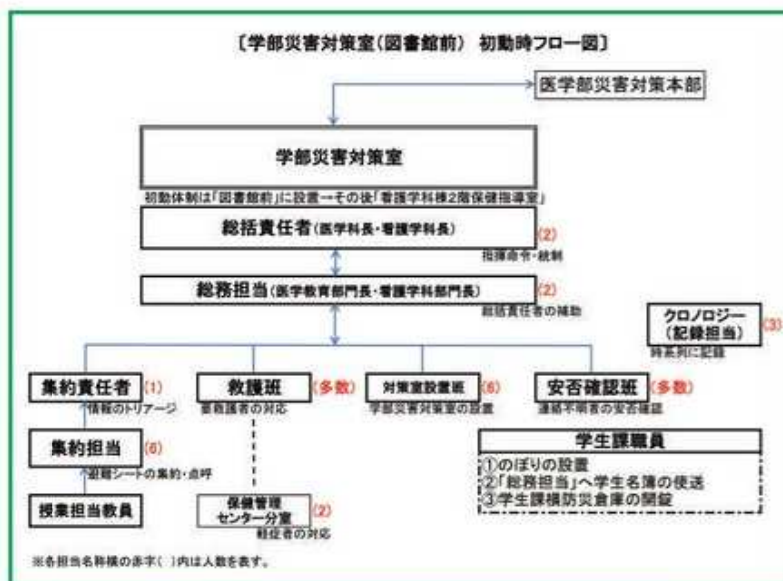
なお、今回の防災訓練ができていない実習中の学生は、安否確認をどのようにすべきか検討中であるが、『学内実習中の学生』は、原則「学生災害対策室」に学生を避難させる。その際、実習グループの学生同士で点呼をし、その結果を実習担当教員が「学生災害対策室」に報告するよう予め「実習の手引き」に掲載するなどして周知する。また、初動時において学生を待機させるべき事由がある場合には、実習担当教員は点呼したうえで「学生災害対策室」へ報告をするよう定める。『学外実習中の学生』は、原則実習中の学生の帰路の安全が確保されない限りは、実習先機関で待機させ、実習先機関から学生の安否を報告させる

講義棟・実習棟第●講義室

医学科災害発生時の避難について
最後の避難者がこのシートを持参し、図書館前へ

1. 安全を確認しながら図書館前へ避難
講義棟→大正と反対方向から、実習棟→非常階段から
2. 集約担当への報告 シートを集約担当へ提出
3. 自身の安全の確保 揺れがある場合は身を低く

持参者氏名
自力で避難できない者 (名)
避難状況



方法を検討中である。

今回の防災訓練を振り返り、参加者の意見を聞くと次の通りであった。

- ・地震発生時には、各講義室の机は椅子が邪魔で下に隠れることが困難であった。
- ・安否確認において、学生数が多くなると集計に手間がかかる。

- ・「学生災害対策室」「集約担当」や「各学年」ののぼりがあることで、すぐに避難させることができた。

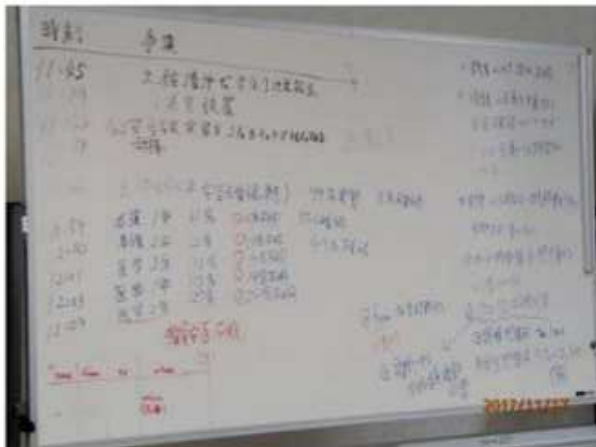
などの報告があり、昨年度も視察に来られた南国警察署の方々から本年度は「本部機能が良くなっている。」と好評化を頂き、無事終了した。



①教室等に掲示の「災害時避難シート」を剥がし記入後、集約担当に報告



②初動の情報収集を①の「災害時避難シート」により集約担当が集計



③クロノロジー(初動時において重要な情報を時系列に記録する)



④看護学科1年生が「のぼり」の場所に避難し、安否確認を実施

平成29年度 医学部同窓会活動報告

医学部同窓会会長 廣瀬大祐



医学部同窓会は奇数月の第4水曜日午後7時から理事会を行い、また高知大学同窓会連合会の一員として年2回、学長・学部長・理

事を含めた大学執行部の方々と意見交換を行っております。

同窓会ホームページ上では“おこうだより”“やまもも（医学部同窓会誌）”を過去のものから最新号までご覧ください。

平成29年度の大きな活動として以下のものをあげさせていただきます。

4月5日（水） 高知県初期研修医オリエンテーション

医師賠償保険を高知大学医学部同窓会で取り扱っていることから、毎年説明会を開いており、一昨年から高知県医師会と合同で行っています。同窓会からは「医師をやめないために」と題して医道審議会、医師の処分についてなど新人医師としての心構えの話をさせていただきました。

4月7日（金）白衣授与式

医学部5年次臨床実習に進む際に、同窓会から記念として白衣（同窓会のマーク付き）を送っています。現在は大学の行事として行われ、白衣代金を同窓会が負担、式に出席、祝辞を述べさせていただきました。

6月3日（土）岡山支部同窓会設立(写真)

午後3時、岡山駅の近くに新しくできた岡山県医師会館で開催されました。

平成7年卒高杉尚志先生が司会進行を行い、発足の経緯の説明を行い。続いて、同窓会本部から私が同窓会の現状を説明した後、発足総会が開かれました。休憩を挟んで昭和63年卒 中平洋政先生、平成元年 卒藤村隆先生、平成10年卒 三好智子先生、平成15年卒 鉄永倫子先生が岡山での近況を発表。その後、平成59年卒 藤枝幹也高知大学医学部小児思春期医学科教授が高知大学医学部の現状、最先端の研究内容などを発表されました。

懇親会はホテルグランヴィア岡山に会場を移して50人余りが参加し盛況に開催されました。

8月5日（土）同窓会総会・講演会では昭和62年卒東京都監察医務院濱松晶彦先生（4期生）が講演をされ、4期生・14期生が大勢参加され盛況に開催されました。平成30年度は5期生（昭和63年卒）・15期生（平成10年卒）・25期生（平成20年卒）の大勢の参加をお待ちしています。

11月4日（土）高知大大学ホームカミングデーでは昭和61年卒 清田明宏国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）保健局長（高知医科大学3期生）が「高知から世界へ・世界から高知へ」と題して講演されました。土曜日で医学部関係の参加者が少なかったのが残念でしたが、パレスチナに遠く離れていても、人のつながりを感じる講演会でした。

同窓会のことを日頃意識することは少ないと思います。しかし、皆様とともに存在し続けます。ご支援よろしく申し上げます。

平成30年度は平成30年8月4日（土）ホテル
日航高知旭ロイヤルで同窓会総会を開催します。
ぜひご参加ください。



KMS岡山支部発足総会懇親会

看護学同窓会の役割

高知大学看護学同窓会会長 寺下 憲一郎

看護学同窓会は平成19年4月1日に発足し、高知医科大学から始まった看護学科が、今は高知大学の看護学科として多くの学部・修士の卒業生を輩出しております。

現在、学部卒の同窓生数は1200名を超え、修了生においても160名を超える方々がご卒業され、様々な場においてご活躍をされています。

このような数多くの同窓生に対して、看護学同窓会は会員相互の親睦を図り、福利厚生や高知大学の発展に協力することを目的とし、活動しております。

在学生に対しては「学生サークルへの寄付支援」「よさこい、大学祭への寄付」「卒業・修了記念品贈呈」を行っております。その他にも、同窓生に対して行っている「同窓生への研究支援」

「高知大学ホームカミングデーの共催」「大学からのお知らせ」の案内などがあります。「同窓生への研究支援」においては、「桜基金」を立ち上げ、同窓生の研究に対して研究費を支援したり、高知大学医学部看護学科で開催される講演や研修に共催することで同窓生へ参加のご案内をしています。

まだ、「桜基金」をご存じない方もいるかと思

いますが、同窓生の研究活動等の支援をしていきたいと考えておりますので、ぜひホームページや、新たに開設いたしましたフェイスブックもご覧にいただき、ご連絡を頂ければと思います。

また、今年度は大学祭初日に同窓生と在校生との親睦会を開催し、参加者46名と多くの方に参加していただきました。少しずつではありますが、今後も同窓生と在校生との縦のつながりが大きくなっていくように活動していきたいと思っております。

看護学同窓会の発展のために、今後とも高知大学教員の皆様をはじめ、同窓生、同窓会連合会の先輩方など多くの方からご支援を賜ります様、よろしくお願ひします。

同窓生・在学生からのご意見お待ちしております。

同窓会HP：<http://www.kango-doso.com>

E-MAIL：kangodoso@kochi-u.ac.jp

Facebook：

<https://www.facebook.com/kms.nurse/>

Facebookでは、看護学科の行事を随時アップしていきますので「いいね！」をしていただければ幸いです。



同窓会総会にて

第60回日本腎臓学会総会において優秀演題賞を受賞

IL36受容体欠損マウスでは急性腎障害AKIの予後が改善し、 尿中IL-36は新規バイオマーカーとなりうる

先端医療学推進センター腎機能再生医療研究班所属 医学科3年 間崎 護

第60回日本腎臓学会総会（平成29年5月26－28日開催・仙台国際センター）にて「IL36受容体欠損マウスでは急性腎障害AKIの予後が改善し、尿中IL-36は新規バイオマーカーとなりうる」という演題を発表し、優秀演題賞を受賞しました。ここでは演題で発表した内容について簡単にご紹介させていただきたいと思います。

もともとIL-36はIL-1ファミリーのサイトカインで乾癬などへの病態が報告されていましたが急性腎障害AKIに関する検討は前例がなく、本研究ではその検討を行いました。IL-36のリガンドは $\alpha\beta\gamma$ の三種類存在し、すべて共通して一つのIL36受容体に結合します。

本研究ではIL-36RノックアウトマウスとWTマウスを28分間虚血したのちに再灌流してAKIのモデルを作成しました。タンパクはルシフェラーゼプラスミド、Erk(アーク)の活性はウェスタンブロットングで解析を行い、臨床検体では造影剤腎症の患者さんの尿中IL36 α の測定とAKI症例の腎生検検体でIL36 α の染色を行いました。

まず、WTとIL36R-KOで虚血再灌流をおこなったところ、KOマウスで血漿クレアチニン濃度、BUNともに減少していることが判明し、AKIの腎予後はKOマウスで大幅に改善されていることが分かりました。次に腎組織を見ましても、KOマウスではWTにくらべてAKI後の組織障害が軽度であることが分かりました。（図1）（図2）

尿細管障害のマーカーであるKIM1で染色するとWTではKIM1陽性細胞が多く見られますが、KOマウスではその減少が見られました。次にアポトーシスの度合いを検討するためにTUNEL陽

性細胞を調べたところ、再びWTにくらべてKOの方でTUNEL陽性細胞の減少が確認されました。したがってKOマウスでは、WTに比べて、尿細管障害が軽度でかつアポトーシスを起こしている細胞も少ないということがわかりました。

そして、AKI後にIL36RのリガンドであるIL36 $\alpha\beta\gamma$ の腎内でのmRNAの発現を検討しました。コントロールでは3つともほとんど発現は確認されず、WT,KOの間では発現に有意差は確認されませんでした。虚血再灌流後にはWT,KOともに発現は大幅に増加しました。（図3）

次に抑制型のリガンドであるIL36RアンタゴニストとIL38の発現も検討したところ虚血でわずかにあがりますが有意差はみられず、またこれも同様にWT,KOの間でも有意差は確認されませんでした。

メッセンジャーRNAの発現を確認できたので今度は、IL36 $\alpha\beta\gamma$ のmRNAが実際に翻訳されてタンパクとして発現しているかどうかを確認するためにウェスタンブロットングでタンパク発現を検討しました。コントロールではほとんど発現は確認されませんが、3つともWT,KOともにAKI後に強く発現が亢進しました。これは先ほど述べたリアルタイムPCRで調べたmRNAの結果と矛盾していません。（図4）

次に36Rの分布を共焦点顕微鏡で検討しました。WTではAQP1陽性の近位尿細管細胞で36レセプターの局在が確認されました。ノックアウトではその発現はありませんのでしっかりとノックアウトされていることが分かりました。

次に強拡大でみてみますと、AQP1陽性のところが近位尿細管細胞で、図のようにパラフィン切片で検討した場合、36レセプターは近位尿細管細胞の膜状で発現していることがわかります。

(図5)

次にAKI後のIL36 α の発現を見るために、まずマウスの中好中球の7/4抗体との共染色を行いました。36 α はAKIのない状態ではほぼ発現は確認されませんでした。AKI後は発現が亢進し、一部7/4抗体陽性好中球で発現していることがわかりました。

先ほどと同様にマクロファージとDendritic CellのマーカーであるCD11bとCD11cで共染色を行ったところ、CD11bは36 α と一部重なり、マクロファージでは一部発現していることがわかりますがDCでは発現は確認されませんでした。

また、AKI後、腎臓の尿細管細胞でも一部36 α 陽性細胞があることがわかりました。AQP1陽性の近位尿細管細胞では36 α との共染色は見られませんでした。タムホスフォールプロテイン、THP陽性のヘンレの上行脚では一部陽性である部位が確認されました。同様に、ナトリウムクロライド共輸送体、NCC陽性の皮質集合尿細管細胞でも36 α 陽性が確認されました。したがってAKI後、遠位尿細管細胞で36 α の発現が亢進することが示唆されました。

次に尿細管細胞で36 α のシグナル伝達を検討しました。まずNF κ Bについてみますと、コントロールではほとんど活性化されていませんが36 α を添加するとWT,KO双方において活性化が確認され、特にWTで大幅にNF κ Bの活性化が確認されました。KOでは約三割程度にとどまりました。そしてErkの活性化を見るためにリン酸化Erkのウェスタンブロッティングを行うとWT由来の細胞では10分ほどでErkの活性化が確認されましたがKO由来の尿細管細胞ではErkの活性化が抑制されました。

ではこのNF κ Bによって刺激をされるサイトカインである、IL6、TNF- α の発現を腎内で検討

しました。IR(虚血再灌流)後にはIL6,TNF α ともにmRNAの発現が亢進しておりWTにくらべ、KOでは有意差をもって発現が抑制されていることがわかりました。KOの方では、NF κ Bのシグナル伝達が抑制されてIL6,TNF α の産生が抑制されるのではないかと考えられます。(図6)

また血清のIL6を測定すると虚血後上昇しますが、これもKOで有意に低下しました。

次に36Rが尿細管細胞と骨髄細胞の両方に発現していることから、骨髄移植実験をおこないどちらの36RがAKIの予後の良悪に影響を及ぼしているのか検討しました。血清クレアチニンをみてみますと、WTのマウスと、ドナーがKOで、レシピエントがWT、つまり骨髄細胞にはIL36Rがなく、腎細胞には受容体が発現しているものでは、血清クレアチニン濃度が増加していることがわかります。一方、ドナーがWTでレシピエントがKO、つまり骨髄細胞には受容体が発現している腎細胞には受容体が発現していないマウスでは血清クレアチニン濃度の大幅な減少が確認されました。つまり、骨髄細胞に36Rがなくても、腎の尿細管細胞に36RがあることがAKIの予後の増悪に影響している、ということが示唆されました。

(図7)

次に臨床研究について説明します。造影剤腎症の患者さんの尿で36 α を測定し、クレアチニンで濃度補正をおこないました。KDIGOのクライテリアでAKIの診断基準をみたした13人の患者さんで、造影剤投与後6時間で36 α の増加が確認されました。一方AKIを起こさなかった患者さんでは36 α の増加は見られませんでした。

そして、薬剤性のAKI、Pre RenalのAKIの腎生検検体で染色を行うと、尿細管細胞と浸潤した細胞の両方も、が36 α 陽性であることが確認されました。

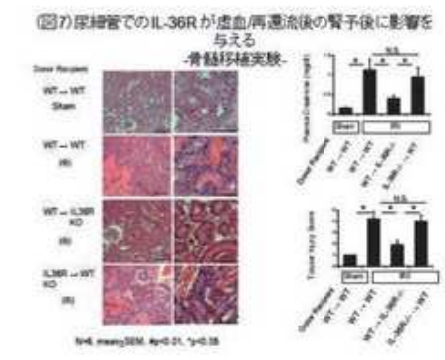
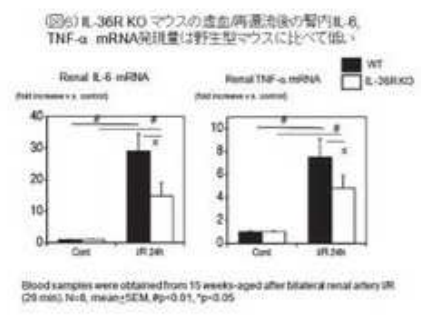
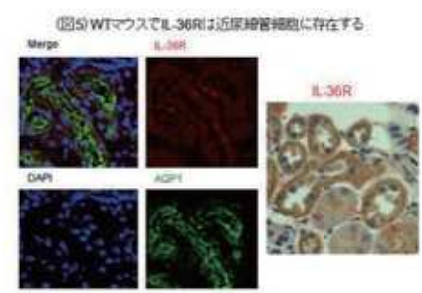
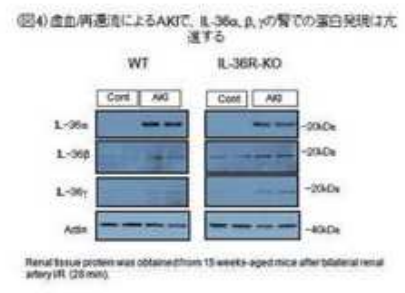
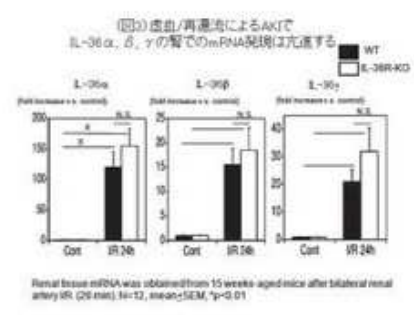
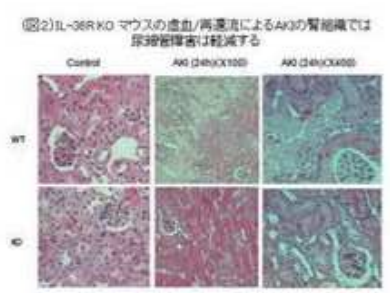
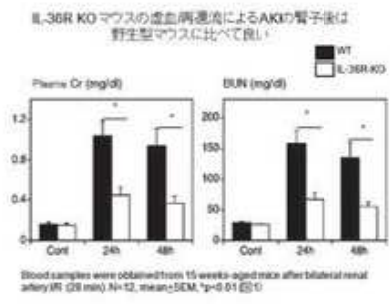
また、AKI腎生検検体を共焦点顕微鏡でみると、CD68陽性のマクロファージと一部の尿細管細胞が36 α 陽性であることもわかりました。

一方軽度なIgA腎症、微小変化群の腎生検検体では36α陽性細胞は少ないことがわかりました。

以上の実験結果から、マウスの虚血再灌流AKIにおいてIL36αβγは、尿細管細胞において発現誘導され、IL6,TNFαを誘導するということが、IL36R-KOマウスでは虚血再灌流によるAKIの予後は改善するということが、ヒトAKIにおいてもIL36αは病態に関与する可能性がある、ということがわかりました。

今回、学生の身でありながら日本腎臓学会とい

う大きな会で研究発表という機会をいただいただけでなく、優秀演題賞という栄えある賞をいただき、深く感謝申し上げます。特に、このような研究をする機会と的確なアドバイスを与えてくださった寺田教授と、どんな時でも懇切丁寧に指導してくださった第二内科の皆さま方の支えがあったおかげだと思っております。本研究で培うことのできた研究マインドを生かして生涯学習に生かしてまいる所存です。これからもよろしくお願いたします。



<学生関係行事> 平成29年4月～平成30年3月

開催月日	行 事 名	備考(開催場所等)
4月3日	入学式	高知県民文化ホール
4月3日	後援会総会	三翠園
4月4日	新入生オリエンテーション	臨床講義棟
4月4日	看護学科1年生とアドバイザー教員との懇談会	学生食堂
4月6日	医学科6年生とアドバイザー教員との懇談会	学生食堂
4月7日	白衣授与式	臨床講義棟
4月7日	医学科5年生とアドバイザー教員との懇談会	学生食堂
4月11日	医学科1年生とアドバイザー教員との懇談会	学生食堂
4月12日	高知県医師養成奨学金貸付制度説明会	講義棟
4月15日・16日	医学部新入生合宿研修	国立室戸青少年自然の家
4月18日	医学科3年生とアドバイザー教員との懇談会	学生食堂
4月20日	看護学科3年生とアドバイザー教員との懇談会	学生食堂
4月24日・28日	医学部長と地域枠学生との懇談会	医学部長室
6月4日	AO入試説明会	実習棟
6月8日	第1回関連教育病院運営協議会	特別会議室
6月24日	第1回医学系大学院説明会	看護学科棟
7月20日	第69回西日本医科学学生総合体育大会壮行会	講義棟
7月23日	臨床実習後 O S C E (医学科6年生)	医学部附属病院
8月6日	オープンキャンパス	実習棟
8月7日～20日	第69回西日本医科学学生総合体育大会(西医体)	山口大学主管
8月10日・11日	よさこい祭り「醫(くすし)」	高知市内演舞場他
10月7日・8日	第37回南風祭	岡豊キャンパス
10月24日	合同慰霊祭	医学部体育館
10月25日	第1回後援会理事会	ザ クラウンパレス新阪急高知
11月4日	ホームカミングデー	岡豊・朝倉キャンパス
11月17日	医学部学生対象防災訓練	図書館前広場他
11月18日	リーダーシップセミナー	講義棟
11月25日	第2回医学系大学院説明会	看護学科棟
12月3日	体育大会	運動場
12月17日	O S C E 試験(医学科4年生)	医学部附属病院他
1月11日	C B T 試験(医学科4年生)	看護学科棟
1月13日・14日	大学入試センター試験	岡豊・朝倉キャンパス
2月10日・11日	医師国家試験	高松市
2月15日	助産師国家試験(大学院生)	高松市
2月16日	保健師国家試験	高松市
2月18日	看護師国家試験	高松市
2月25日・26日	前期日程入学試験	岡豊・朝倉キャンパス
3月19日	医師国家試験合格発表	
3月23日	卒業式	高知県民文化ホール
3月23日	医学部学位記授与式	体育館(岡豊キャンパス)
3月26日	看護師・保健師・助産師国家試験合格発表	
3月27日	第2回関連教育病院運営協議会	特別会議室
3月31日	第2回後援会理事会	特別会議室

よさこい祭り醫医学部チーム



よさこい祭り醫医学部チーム



南風祭



南風祭



学長めし



国試見送り



Summer Medical Education Institute report

医学科5年生 田村友里

私がこのハワイ大学医学部への留学プログラムを知ったのは高知大学医学部入学前の大学説明会だった。もともと海外に対する関心が強く、医学部に入ったら海外の臨床実習を経験したいという思いがあり、ESSに所属し積極的に英語に触れてきた。毎年夏に行われるBuddy Buddy Programにも一年生のときから継続して参加し、ハワイ大学生との交流を続けてきた。彼らとの交流を重ねていくなかで、さらにハワイを含む海外の医療に興味をわいた。5年生となり、大学病院での臨床実習が始まり、実習で先生方の診察や治療に間近にふれ、日本の医療現場の実態に触れるとともに現場での医師の責任の大きさ、自分の未熟さを思い知らされた。そのなかで自分の理想の医師像について考える機会も多くあった。そして、日本とは異なる海外の医療現場、診察も直に感じて客観的な視点を持ちたいと強く思うようになった。そしてこの夏、ハワイ大学に赴き、臨床現場を体験して視野を広げるとともに、Summer Medical Education Instituteを通じて学んだことを糧に、これから続く大学病院での臨床実習と理想の医師像の創造をおこなっていかれたらと考え、当プログラムに参加した。

ハワイ大学の学習プログラムではグループに分かれ、PBLや禁煙外来のロールプレイを行った。ハワイ大学短期派遣プログラムには北は青森から南は鹿児島まで多くの大学の学生が参加しており、学年も1年生から6年生までおり、多様な背景を持つ学生が集まったことで実習においても幅広い視点が生まれた。PBLは本校でも行っていたが、海外ならではの視点に驚かされたこともあった。日本では患者背景として人種や生活背景について

考察することがあまりない。しかし海外では多様な人種と生活背景があり、その点を考慮しなければ適切な診断を行うことが出来ない。大学病院を中心とした実習では患者は病院に手術や治療を求めてくることが多く問診から診断を行う機会も少ないが、視点としてはっとさせられる部分だった。問診の重要性と診断の難しさを改めて感じた。禁煙外来のロールプレイではハワイ大学の学生やSPの方々が患者さんとなって問診を行った。患者さんの禁煙に至るまでの目標設定やきっかけ作りなどを提案していくのは個々の生活や性格なども踏まえて一緒に考えていく必要があり、英語で行う難しさを感じた。

ハワイ大学でのプログラムに参加して実感したのは自主学習の重要性である。PBLも手技練習も自主的に行い、学習の自由が確保されている一方で自己責任を伴う。自分の学習がいかにか受動的だったのかを思い知った。ハワイ大学生や他大学の医学部生徒の交流により客観的に自分の学習や日本の医療を見つめることができ、今後の臨床実習を含めた学習の指針となるものをつかめたように感じた。

高知に戻り、実習が再開した今、この実習で得た感覚を忘れずに日々過ごしている。この機会をいただいたことは私にとって財産となった。

最後になりましたが、この機会を下さったハワイ大学の方々、小林先生をはじめとする高知大学の先生方、学生課の方々に感謝申し上げます。



第64回よさこい祭り 醫—KUSUSHI—

くすし代表 看護学科3年生 宮崎 皓也

私たち「高知大学医学部よさこいチーム—醫—KUSUSHI—」は、今年も8月9日から12日に開催された、「第64回よさこい祭り」の10日と11日の本祭に出場することができました。前身である「高知医科大学よさこい踊り子隊」から数え、通算37回目を迎え、先輩方が築き上げてこられた伝統の重さを感じ、支えてくださる多くの方々へ改めて感謝を申し上げます。

さて、この醫についてですが、何といても一番の強みであり魅力なのは、「毎年学生が一からすべてを作り上げている」ということです。今回、有難いことに原稿執筆の依頼を頂き、これを通して醫に興味を持ち、ぜひ私たちと一緒に踊ってもらえたらという願いを込めて、醫の紹介をさせていただきます。

まず、この「醫」という字ですが、これは旧字体の「医」であり「医療に携わる者」という意味があります。医学部にちなんだ名前です。平成16年からこの名前で出場しております。少し難しい字ではありますが、覚えて頂けると嬉しいです。

また、我がチームには参加資格はありません。毎年、医学部の学生だけでなく、その親戚や家族、友人、大学や附属病院の職員の方々、卒業生の方々、一般の方々など様々で、練習や本番を通して幅広く交流が深められるのも大きな魅力だと感じています。

次に、この醫を支える幹部についてです。「一からすべてを作り上げる」というのは、この幹部を中心に、毎年異なるテーマや衣装、地方車のデザイン、振り付け、さらには曲までも作っているということです。もちろん、醫でよさこい祭りに参加することも楽しみですが、幹部として醫を作り上げていく喜びや本番を終えての達成感、何物にも代え難い充実感があると私は思います。毎年、その年の反省会から始まり、新たなメンバーを加えた新幹部の発足から動き出します。一番苦勞するのはその年のテーマです。話し合いでは、他のチームのいい点を共有し、モチーフとなるものやイメージカラー、音楽のジャンルなどから試行錯誤を重ねます。その年のテーマがすべてに統



一感を持たせ、その代の「らしさ」というものを表現するので、時間をかけて幹部で話し合いを重ねます。

ちなみに、今年のテーマは「獅子奮迅」でした。文字通り、獅子が奮い立ち暴れまわる様子を表現し、踊り子も観客のみなさんにも「楽しさ」を感じてもらいたいと思いました。モチーフは獅子舞で、地方車にもデザインして全体的に「和」の雰囲気になりました。テーマカラーとしては赤(朱色)と深い緑を挙げ、衣装では獅子舞を表す唐草模様を取り入れると共に、アップテンポな曲に合わせた躍動感のある振り付けが目立つよう、少し開けてもいいような丈感にこだわりました。

また、毎年練習においては、幹部を交えたインストラクター（通称：インスト）も大活躍します。学生は、前期末の試験や部活動を両立しながら醫に参加してくれ、その進度に合わせて振り落としをしていきます。練習からインストが先頭で踊りを引っ張り、今年も本番では見事な踊りを披露しました。

このように、幹部はそれぞれ自分の個性や強みを生かし、本番へ向けて準備を重ねます。私は今年代表としてこの醫の先頭に立ちましたが、振り

返ればいつも、幹部が私を支えてくれていました。昨年度、これまでの醫には欠かせなかった幹部の先輩方が多くご卒業され、今年は新しい代への変り目でもありました。幹部の先輩方に助言を頂き、頼もしい後輩たちが率先して動いてくれ、また参加者のみなさんにも助けられたと感じています。失敗ばかりで、たくさん迷惑をかけた部分もありましたが、私に最後までついてきてもらったことに感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、学生が主体となり当たり前のように毎年参加できているのは、関わって頂けるたくさんの人々の支えがあるからこそです。協賛して下さった企業並びに、病院・医院の皆様、大学関係の皆様、そして音響や地方車、衣装作り、当日の給水・救護車などスタッフの方々が、理解し協力して下さることで醫は活動できております。ご迷惑をおかけする点も多く、それでも応援して頂けることに感謝し、今後もさらに精進していきたいと思えます。

2018年度も、高知大学医学部よさこいチーム醫-KUSUSHI-を、どうぞよろしくお願い致します。



第37回 南風祭を終えて

南風祭実行委員会委員長 医学科2年生 山内 滉也

第37回南風祭の実行委員長を務めさせていただいた、医学科二年の山内滉也です。高知大学岡豊キャンパスが年に一度、一番盛り上がり、一番人が多く集まるといっても過言ではない高知大学医学部最大級のイベント、南風祭。その南風祭の実行委員長の仕事を引き受けた時は、不安でもありましたが、その反面楽しみでもありました。前委員長から仕事の内容やこれからどのように学祭に向けて準備していくのかなど、委員長としての役割は想像以上に重く、時には投げ出したくなる時もありました。しかし、一つずつ仕事をこなしていきながら、達成感というものを感じ、同時に責任感も芽生えてきました。そして、自分が南風祭の委員長なんだという自覚をしっかりと持っていかなければいけないと思いました。

委員長の最初の仕事はテーマを決めることでした。最初は、すぐ決まるだろうと思っていましたが、考えてみると案外難しく、何日もかけて考えていました。テーマはその年の学祭そのものを表

しているといっただけなので、自分たちはどんな学祭にしたいのかを実行委員全員で考えました。その結果「若燦々」に決定しました。このテーマには、若さと、太陽が燦々としている、この二つの言葉をかけたもので、高知大学医学部岡豊キャンパスに、若さが溢れ、元気で笑顔いっぱいになりますように、という願いが込められています。この学祭は、この一年で一番笑ったなあ、そう思っていたら幸いです。

そして、全部署で学祭に向けての準備がスタートしてからは、広告取りに明け暮れる毎日でした。二年生が中心となり、様々な企業にパンフレットへの広告掲載のお願いに回りましたが、たくさんの人とのふれあい、快く応じてくれ、「頑張る」と励ましてくれる方々に、感謝の気持ちと、人との繋がり大切さを感じました。これは、広告取りだけではなく、花火に向けた募金活動や病院や地域の方々へ南風祭開催のお知らせに行った時にも感じました。このような機会があるの



は、高知大学岡豊キャンパスだからこそではないかと感じます。先輩方や教授の方々だけでなく、地域の方々にも励ましの言葉をいただき、実行委員間の協同はもちろんのこと、先生や学生・地域の皆さんなど、たくさんの人との繋がりを大切にしないとこの学祭は成功しないと、改めて気持ちの一つにすることができました。日がたつにつれ、大変だと思ふ気持ちよりも、連帯感が生まれ、学祭を絶対に盛り上げて成功させようという気持ちが増していきました。学祭に参加するだけでは味わえなかった、仲間と協力して作り上げていくという過程を経験でき、自分自身も成長することができました。学祭に至るまでも、いくつか問題が生じてしまい、ご迷惑をかけた企業の方々には大変失礼なことをしてしまいましたが、温かく見守っていただけたおかげで無事学祭を迎えることができました。

南風祭当日は、曇りではありましたが雨は降らなかったため、予定通り進行することができました。一日目と二日目の花火までは、あっという間に時間が過ぎていきました。ステージのスケジュールも、ほぼ時間通り進行し、最後の企画が終わるころにそろそろ花火が打ち上げられる時間になっていました。花火前の最後のあいさつでは、今

年の南風祭もアクシデントもなく、無事に終わったという安心感があり、心を込めて協力していただいたすべての方々に感謝の気持ちを伝えることができました。最後には、消防署の方々の協力もあって無事花火を打ち上げることができ、やり遂げたという達成感を感じることができました。

南風祭が終わり、振り返ってみると、パンフレットの広告を掲載してくださった企業や病院の方々、音響を担当してくださったキャラバンサライさん、ステージ設営をしてくださったカイト興業さん、そして電気関係を担当していただき、様々なアドバイスをしてくださった四国電飾工芸さんには、最後までお世話になりました。また、花火募金をしてくださった皆さん、学生のわがままを聞いてくださった大学関係者の方々、学祭に関わって手助けをしてくださった先輩や後輩、同級生のみんな、このように様々な人に支えられたからこそ、南風祭の委員長の仕事をやり遂げられたのだと思います。この場を借りて改めてお礼申し上げます。委員長の最後の仕事は、来年度の南風祭がより良いものになっていくように後輩に伝えていくことだと思っています。どうぞ、来年以降の南風祭もよろしくお願いします。



高知大学医学部 準硬式野球部

医学部医学科3年生 高村 光輝

(医学部準硬式野球部主将)

私たち準硬式野球部はプレイヤー21人、マネージャー4人の計25人が在籍しています。昨年開催されたWBC（ワールドベースボールクラシック）、現ロサンジェルス・エンジェルス所属の大谷翔平選手の投手と野手二刀流での活躍、北海道日本ハムファイターズ所属の清宮幸太郎選手の人気ぶり等の甲斐あって、近年部員は増加傾向にあります。私たちの活動は水、金、土の週3日間を練習日として、場所は比江グラウンド、東部補助グラウンド、東部室内練習場、四国銀行グラウンド、市営室内練習場などをお借りして行っています。さらに時折、四国内の大学と練習試合を行っています。

さて、私たちは「準硬式野球部」です。準硬式野球というピンとこない方もいらっしゃるのではないのでしょうか。準硬式野球とは表面、見た目が軟式球、中身が硬式球である準硬式球を使った野球であり、ルールは普通の野球と変わりありません。また、大学の硬式野球と違い、バットは金属製のものを主に使用します。準硬式球の特徴は握った感覚や大きさは軟球と同じであること、打った感覚や打球の跳ね方、重さは硬球に近いことなどが挙げられます。このことから、軟式野球、硬式野球経験者の双方が準硬式野球に転向することが容易になっています。また、初心者の方や経験の浅い方も硬式野球に比べて入っていきやすいと言えるかもしれません。実際、私たち部員は高校野球経験者ばかりではなく、大学で野球を始めたばかりのプレイヤーや小学校や中学校までしか野球をやっておらず他競技からの転向となったプレイヤーもおり、中にはレギュラーを勝ち取るプレイヤーも存在します。さらに、金属バットを使うこと、準硬式球が硬球に比べ耐久性が高い

ことから、金銭的な負担も小さく済みます。以上のことから、初心者から経験者までハードルが低く、野球を始めやすいというのが準硬式野球の魅力であるといえます。

次に私たちが出場する公式戦について紹介します。公式戦は春季リーグ戦、インカレ、中国四国大会、西医体、秋季大会があります。このうち、春季リーグ戦、インカレ、秋季大会は私たち高知大学医学部準硬式野球部が所属する四国地区大学準硬式野球連盟が主催する大会となります。

今年の目標は春のリーグ戦での1部昇格、西医体ベスト4であり、そのためにも日々の練習に全力で取り組んでいます。また、練習の中でも各個人が課題を見つけ、自分のこなすべき練習を明確化するなど、練習の質を高める努力をしています。部活動以外の時間でも、元球場で素振りやティーバッティングを行ったり、トレーニングルームで筋力アップを図ったりするプレイヤーも見られます。練習時間が限られている、自前の練習場がないなど制約も多いですが、そういったハンデを乗り越えられるよう工夫を凝らして練習に打ちこんでいます。

さて、ここで、2017年度シーズンを振り返ってみようと思います。春季リーグ戦は第1節の四国学院大学に2勝したのを皮切りに勝利を積み重ね、6勝2敗で2部2位となり入れ替え戦に進出することができました。これは1勝6敗1分で最下位に沈んだ昨年度とは打って変わって好成績で、チームの成長を感じる結果となりました。しかし、迎えた入れ替え戦では徳島大学医学部に敗北を喫し、1部のチームとの実力差を痛感しました。高知県開催となった中国四国大会では、広島大学医学部に終盤に大量点を喫し、7-3と敗れ

てしまいましたが、その後は主管校としての役割を果たし、大会を無事に運営することが出来ました。7月に開催されたインカレでは初戦で四国王者の松山大学と対戦しましたが、6回コールド負けと悔しい結果に終わりました。8月に山口県で開催された西医体では1回戦は和歌山県立医科大学と対戦しました。接戦で息詰まる展開となりましたが、少ないチャンスをものにし6-4で勝つことができました。2回戦は山口大学と対戦しました。この試合は前日とは打って変わって乱打戦となり途中雨で試合が中断するなど荒れた展開となりました。打ち合いの結果、12-13と惜しくも破れてしまいましたが、チームが一丸となり勝利を目指せたことはチームの財産になったのではないかと思います。西医体が終わり新チームとなって迎えた秋季大会では徳島文理大学、愛媛大学医学部に連勝し予選リーグを突破、決勝トーナ

メントへと駒を進めました。決勝トーナメントでは、インカレで惨敗した松山大学に惜しくも2-5で敗れてしまいましたが、チームが着実に成長していることを感じる結果となりました。

2017年度シーズンは、思うように勝てず苦しい時期もありましたが2018年度シーズンに希望を抱ける締めくくりとなったように感じます。2018年度は、学業という医学生としての本分を全うしながらも、1部昇格、西医体ベスト4という目標を果たせるよう精一杯努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、OB・OGの先生方をはじめ、高知大学医学部準硬式野球部を支えてくださっている多くの方々に心より御礼申し上げます。皆様のご期待にそえられますよう、チーム一丸となって目標に向かって精進して参りますので、これからも温かいご支援をよろしくお願ひします。



高知大学医学部 ラグビー部

医学科3年生 市川天彦

私たち高知大学医学部ラグビー部はプレイヤー20名、マネージャー14名の計34名で構成されています。顧問は臨床看護学の教授でいらっしゃる溝淵先生、OB会会長に整形外科の川崎先生にお願いしており、駐車場の横のグラウンドで活動しています。また、本学のラグビー部とは代々関係は深く、毎週土曜日は一緒に練習をして、練習試合などの助っ人をお願いしあいながら、助け合って良い関係を築いています。そして、他大学との交流も多く、四国内の大学はもちろんの事、3年前まで合同チームを組んでいた和歌山県立医科大学とも定期的に交流をしています。練習は月、水、土曜日の週三回行っており、部員は日々、勉強に部活に真面目に取り組んでおります。

我々ラグビー部は長年、部員不足に悩まされており、私がこの部活に入った一昨年の夏が何年か振りの西医体単独出場で先輩たちはとても喜んでいたので覚えています。その年の西医体は惨敗したのですが、力のある後輩も続々と入部してくれて着々と実力をつけていった結果、去年の夏

の西医体ではついに、香川大学に一勝を挙げる事ができました。西医体で一勝するという目的を掲げ、日々取り組んできた練習が実を結んだあの勝利の瞬間は一生忘れないと思います。その次の広島大学戦でも格上相手にもかかわらず互角以上の試合ができ、実際に試合をしていて最後の1秒まで勝ちを諦めずにプレイするチームメイトをととても誇らしく感じました。

長年、部員不足に悩まされてきたと先程申しましたが、去年の新歓ではプレイヤー7名、マネージャー7名と、近年のラグビーブームの恩恵を受け、とても賑やかな部活になりました。少人数では限られる練習法も大人数になればとても幅が広がり、有意義な練習ができるようになりました。また、今年的一年生には、花園と呼ばれている高校ラグビーの全国大会を経験したプレイヤーも入ってきてくれて、また1つ上のチームになれたような気がしています。マネージャーの人数も昔と比べると、とても増えて、練習中の水分補給や、プレイヤーが怪我をしてしまったときの処置など



の仕事に熱心してくれるだけでなく、私たちのチームの雰囲気と和ませてくれていて必要不可欠な存在となっていて、プレイヤーも日々、感謝しております。

ラグビーというスポーツは、ワールドカップが日本で行われることが決定していたり、オリンピックの種目に七人制ラグビーが決定したりなど、近年ブームになりつつあるとは言え未だに一般的とは言えません。この文章を読んでいる方でも、正直アメフトと何が違うのかわからないという人も多いと思います。ラグビーとは、簡単に言うと1チーム15人のプレイヤーが1つのボールを奪い合いゴールラインに向かって相手の陣地に攻め入るスポーツです。その際、陣地をいかに広げて優位に立つかということが重要になるため「陣取りゲーム」という側面も持っています。そして、相手ゴールラインの向こう側にボールを持ち込み、地面につけることで「トライ」となり、「コンバージョンキック」の権利を得ます。トライは5点、キックが決まると2点入ります。他にもドロップゴールやペナルティゴールなどで点を競います。アメフトと大きく違う点は、ボールを前に投げてはいけないことです。ボールを前に投げたり落としたりすればペナルティとなり相手にボールが渡ってしまいます。ラグビーは、接触の激しいスポーツということもあって細かく見ていくと非常にルールが複雑のように見えますが、主要なルールをいくつか抑えればプレイするのも、観戦

するのも楽しめるスポーツなので、今よりさらにラグビーが普及して、みなさんに知ってもらえたら嬉しいです。

ラグビーには、「One for all, All for one」という有名な言葉があります。これは、「一人はみんなのために、みんなは一つの目標のために」という意味です。一つの目標、つまり勝利のために一人一人がチームのために努力するというラグビーの精神がよく表れている言葉だと思います。ラグビーは他のスポーツと比べてもチームプレイが重要で、個人の能力というよりもチーム全体の連携が取れているかなどが特に重要なスポーツのように感じます。個人の能力はもちろんのこと、チーム全体としての実力をさらに向上させて、西医体、関西医歯薬大会、インカレでひとつでも多く勝利することを目標に真剣に練習に取り組みたいと思います。また、マネージャーへの感謝の気持ちなども忘れず、チームのよい雰囲気を保ちながらマネージャー、プレイヤー関係なく一致団結できるように努力していきたいです。

最後になりましたが、顧問の溝淵先生をはじめ、いつも寄付をしてくださっているOB・OGの方々など支えてくださっている全ての方々に心より御礼を申し上げます。皆様の期待に添えられますように引き続き活動してまいりますのでこれからもご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。



医学部 華道部

医学科3年生 西村直子

「華道」といえばどんなイメージを思い浮かべますか？上品、美しい、縁がない（近づき難い）、お金がかかりそう、年配の女性のためのお稽古事？

本学医学部華道部は高知医科大学創立（昭和53年）間もなく設立されました。初代指導者である小原流の高橋恭子先生がお亡くなりになられた後、初代の弟子であった、現在医学部学生課長である立花広枝先生が引き継いでくださり、今に至ります。学生の間ではあまり知られていないのですが、岡豊キャンパスの中で長い歴史を持つ部活の一つです。顧問は内分泌代謝・腎臓内科学講座(第二内科)の藤本新平教授に担当いただいています。

部員数は20名ほどで、各学年、女子が多いですが、今年は新入生5名が入部し内4名が男子、現在の部長は男子学生が務めています。お稽古は、岡豊キャンパス・学生会館の和室を使って月一回行っています。月に一回なので、他の文化系

の部活やスポーツ系の部活などの兼部も可能で、部員のほとんどが兼部しています。先生の御好意で大学生の部活動ということもあり、お稽古代も財布に優しくしていただいています。

お稽古ではまず各自がお花の組み合わせや色、角度などを考えながら、その時のテーマに合わせてベストを尽くして生けます。生けながら先生の指導を受け、形に沿った生け方の美しさや格好良さを教わります。「基本の形」に合わせて花を生けるのですが、感覚的に色や型を捉えている人もいれば、論理的に考えている人もいて、各々独自の視点を持って試行錯誤しているのが面白いです。

華道部の「お稽古」といえば静寂のイメージがあるかもしれませんが。私も入部したてのころは「お稽古」と聞いて、粗相しちゃいけないと、とても緊張していました。しかし、お互いに「もっとこういう風にしたらいんじゃないか？」などアドバイスをしながら、また、ちょっとしたお喋



りを通じて先輩と後輩で情報を共有するなど、和気藹々とした雰囲気です。男女共に仲良く、気負わず、楽しく活動しています。学内の先生方もお稽古に参加されていて、交流を深めています。生けるのは個人ですが、お花を通じて部員の心が一緒になっているのを感じます。

お稽古では、平たいお皿のような形の器に針（剣山）を置き、そこに花を刺して固定する「盛花」や、筒形の容器に生ける「投げ入れ」などの古典的ないけばなや、丸い形の器で花冠のように生ける「まわる」、左右に開いた形に生ける「ひらく」など、多様な花型にチャレンジできるのでいつも新鮮です。新しい形を習って、生けられるバリエーションが増えていくと、お稽古が益々楽しくなります。上級生になると先生の手直しが少なくなってくることで、お稽古を通していつのまにか美的感覚や色彩感覚が養われているのかもしれない。また、実際の生活でいかせるのがこの部活のとても良いところだと思います。

四季折々の花材を使った通常のお稽古のほかには、クリスマスには車座になってリース作りをして楽しめます。蔓をくるくる巻きながら輪っか部分作って、そこにモミの木の葉っぱやユーカリを載せていきます。松ぼっくりや、「ヒポクラテスの木」の実など、自然のものを多く使ったもの、リボンや人形などで個性を強調したものなど、様々

なリースが出来上がります。またイベントの一つに、医学部キャンパスで行われる学位記授与式での演台花のいけこみがあります。部員一丸となり、卒業生への祝福の気持ちを込めて演台に花を生けあげます。

そして部活動の中で最も大きなイベントは、学園祭での作品展示です。毎年、10月に開催される医学部の学園祭“南風祭”では、看護学科棟1階ロビーに部員が生けたお花を展示します。珍しい実や花、より高価な花材を使って日頃のお稽古の成果を披露します。特に6年生にとっては集大成となり、毎年とても豪華な作品となっています。また、今年のロビーの飾り付けは、和紙を扇型に切ってモビールのように天井から吊るしました。学祭を経験したことで部員同士の交流をより深めることができました。“南風祭”に来られた際には、是非、部員渾身の展示をご覧くださいませ、部員一同お待ちしております。

最後になりましたが、顧問の藤本先生はじめ、立花先生、部活動でお世話になっている教職員の方々、また華道部の伝統を築かれ卒業後もあらゆる面でご支援下さっているOB・OG、すべての華道部関係者の皆様に感謝し、心より御礼申し上げます。また、これからも暖かいご支援とご鞭撻を承りますよう、よろしく願いいたします。



フィールド医学研究会について

医学部医学科5年生 吉本大治
(フィールド医学研究会部長)

フィールド医学研究会は1991年設立の高知大学医学部において現在最も歴史ある医療系サークルの一つです。現在の部員数は在校生17名（5年生2名、4年生4名、2年生6名、1年生5名）で、これに加えて高知県立大学の方も当研究会の活動に参加しています。

まず「フィールド医学」という言葉をご存知でない方が多いと思いますので説明させていただきます。

私たちが日頃から学び、実践している臨床医学はベッドサイドにおいて患者の有する疾患を診断し、治療やリハビリテーションを行うことを目的としています。このような病院を中心とした臨床医学は、昨今の医療を支える重要な役割を担っています。このような臨床医学は疾病における症状や老化による機能低下といった結果に対するアプローチが得意です。しかし、疾病に罹患する理由や老化の過程などといった病院にやってくる原因というものは多種多様です。その人の生活環境や社会環境、宗教観に至るまで幅広いことを観察せねばその原因を探ることはできません。病院を中心とした医学ではこのような多様性の考えられる原因へのアプローチが難しい場面があります。また、日常生活の障害なども人それぞれであり、実際にその人の生活をみなければ的確な理解とアプローチを行うことは不可能でしょう。フィールド医学は病院にとどまるのではなく、実際に現場に向かい医学的フィールドワークを展開し、疾病の原因・背景や老化のありさまなどを自然環境、文化、歴史、宗教など様々な学問領域と統合させることにより改めて追求する学問領域です。

つまり、フィールド医学とは「まず現場へ行く」、「現物を見て考える」、「現実的に考える」のフィールドワークにおける3現主義を実践

し疾病や老化のあり方を捉えなおす医学領域といえます。

現在、高知大学医学部フィールド医学研究会では毎年夏に行われる土佐町ご長寿健診への参加と、毎年春には当研究会の卒業生が院長を勤められている津野町の診療所への実習を軸に活動を行っております。また、ここ数年の間には多くの先生、先輩方のご厚意によりインドネシアのパプア州での海外調査やブータンでの海外調査にも参加させていただいております。他には「患者家族滞在施設ドナルド・マクドナルド・ハウスこうち」での訪問やお遍路さんへのアンケート調査のお手伝いなども行っており、活動範囲は多岐に渡ります。

これらの活動は長期間に渡るものも多く、夏休みや春休みなどのまとまった休みを利用して行っています。普段は1~2週間に1度の部会を開催し、活動について議論を行い、他には部員が持ち寄りで様々なテーマについてプレゼンテーションをするという形で勉強会を行っております。この勉強会では医学的なテーマだけでなく社会学や宗教、スポーツに至るまで一見すると全く医学と関係のないテーマも扱っています。このような勉強会は部員たちのプレゼンテーション能力の育成だけでなく、フィールド医学における研究活動や人々とのコミュニケーションを広げるために大切な知識の拡張、そして部員同士のつながりを深めるために重要な役割を果たしています。

フィールド医学研究会の活動の特徴はその幅広さと、何よりも多くの方々との交流にあると考えています。例えば土佐町ご長寿健診では土佐町の保健師の方々との交流にとどまらず、京都大学や東京女子医科大学、新潟大学、大阪大学、九州歯科大学など全国各地の医学生や他学部の学生、先

生方との交流を深めることのできる活動となっております。また健診を通して土佐町の高齢者の方々との出会いもあります。

他大学の先生方や学生の皆様との交流からはいつも新しい知識や視点を得ることができます。そして地域の方との交流では、決して教科書や大学の講義からは学ぶことのできない経験や知識を吸収することができます。

また海外調査では高知はおろか日本さえも飛び出して日常生活では訪れることのない舞台に自分たちの身を置き、現地の方々とのコミュニケーションや生活の実体験によって大きな成長を得ることができております。

このように様々な活動を行っているフィールド医学研究会ですが、数年前には部員数が大幅に減少し部活動としての存続が危ぶまれた時期もありました。現在はすでに卒業された先輩方や在校生の地道な広報活動によって在校生部員17名に高知県立大学でフィールド医学に興味を持ち活動に参加されている1名を加えた計18名で賑わいのある部になっています。当研究会は個性的な部員ばかりであると言われることがしばしばあります。個性的な人が集まると衝突も起こることが多いと思われそうですが、私たちは各々の個性が調和しお互いの長所がお互いの短所を補い合っています。そして安定した活動を行うことができています。

現在、私たちには継続した研究活動を行うこと

ができていないという大きな課題があります。部員の減少という課題が解消されたいま、私たちは継続した研究活動の提案、計画、実行をしなければなりません。今後はまずこれまでの活動や経験から生じた課題や疑問、先輩や先生方からの提案、また各々が独自に感じた疑問や上級生が臨床実習を通じて学んだことやそこから生じた疑問や提案を抽出、整理し、研究活動の提案と計画の構築を行っていかうと考えております。一朝一夕でできることではないということは重々承知しておりますが、部員一丸となってこの課題に挑んで参ります。

フィールド医学研究会は歴史ある医療系サークルであり、様々な現場で活躍され、また私たちの活動を応援して下さる多くの卒業生の先輩方がいます。またフィールド医学研究会の立ち上げから多くのご支援をしてくださっている先生方もいらっしゃいます。私たちは先生・先輩方の多大なる応援に応えられるよう積極的な活動を行って参ります。また、この活動が部員全員の成長につながるよう努力してまいります。一人ひとりの力は小さいですが皆で力を合わせて奮闘努力していきます。

最後になりますが、フィールド医学研究会を支えてくださっている全ての先生、先輩方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。また、これからも温かいご支援をよろしくお願い致します。



◆平成29年度 医学部後援会 被表彰団体・個人一覧

《団体》第69回西日本医科学生総合体育大会 ■総合成績：5位

団体名	順位	成績
医学部弓道部	優勝	男子団体
医学部弓道部	準優勝	女子団体
医学部硬式庭球部	準優勝	男子団体
医学部硬式庭球部	3位	女子団体
医学部ヨット部	3位	470級

《個人》第69回西日本医科学生総合体育大会

氏名	学科学年	順位	団体名	成績
市川 瑠里子	医学科5年	優勝	水泳部	女子50mバタフライ
市川 瑠里子	医学科5年	優勝	水泳部	女子100mバタフライ
横谷 昌樹	医学科5年	優勝	陸上競技部	男子円盤投
伊藤 大輔	医学科1年	優勝	医学部空手部	男子組手新人戦
塩見 真章	医学科3年	準優勝	水泳部	男子200m個人メドレー
塩見 真章	医学科3年	準優勝	水泳部	男子400m個人メドレー
種村 祐紀	医学科5年	準優勝	水泳部	男子100m平泳ぎ
大森 麻未	医学科5年	3位	医学部 バドミントン部	女子個人ダブルス
今井 麻央	医学科5年			
大嶋 教勢	医学科6年	3位	水泳部	男子400mメドレーリレー
塩見 真章	医学科3年			
種村 祐紀	医学科5年			
山田 智大	医学科3年			

《団体》西日本看護学生(コメディカル)体育大会

団体名	順位	成績
医学部バスケットボール部	3位	女子団体

《白衣授与式》

平成29年度『白衣授与式』の実施について

学生課長 立花 広 枝

平成26年度から、入学式、卒業式に次ぐ新たな医学部の行事として、同窓会組織から臨床実習の始まる医学科5年生に白衣を贈る「白衣授与式」を実施しています。

臨床実習は、直接患者さんに接し1年余かけて様々な体験をしながら医療を学ぶ、極めて重要な実習科目です。医療現場への第一歩を踏み出そうとする学生に対して、実習の心構えと医の倫理の自覚、患者さんに対して持つべき思いやりの心を再認識してもらうことを式の目的としています。

本年度は、4月7日（金）に式を挙行、保護者、アドバイザー教員、教職員ら約120人が出席し見守る中、医学科5年生112人、一人一人にアドバイザー教員から白衣が授与されました。

本家医学部長から「本学の理念「真理の探究」、
「敬天愛人」が示すように、医学にはサイエンスとヒューマニズムの両輪が必要なのです。将来医師になった後も、ときどき折に触れて、今日のことを思い出し、医師の道を歩み始めた原点に立ち返り、自分を見つめ直してください。」と挨拶があった後、5年生代表の吉本大治さんが「学生教育にご理解とご協力をいただける患者様のご厚意を無駄にすることがないよう誠心誠意、感謝の気持ちを持って実習に取り組むとともに、座学では学ぶことのできない多くのことを学ばせていただき将来、一人前の医療従事者として還元したい。」と宣誓し、厳粛に式が終了しました。



平成29年度「白衣授与式」

《合同慰霊祭》

平成29年度 合同慰霊祭

学生課長 立花 広 枝

平成29年度合同慰霊祭が、遺族、爽風会会員、学生、教職員の約650人が参加する中、10月24日（火）医学部体育館において厳かに執り行われました。

合同慰霊祭は、教育・研究のために献体いただいた方々に、感謝の気持ちを新たに、霊を慰める祭事として昭和55年度に始まり、今回で38回を迎えました。

「医の礎」と記した碑と菊の花が飾りつけられた祭壇を前に、ご献体された方々121名* のお名前が一人ひとり奉読され、本学を代表して本家孝一医学部長が御尊名簿を祭壇に奉納し、参列者全員が御霊に1分間の黙とうを捧げました。

一般社団法人爽風会・小澤幸次郎理事長、本家医学部長、由利和也解剖学講座教授から追悼の言葉が捧げられ、医学科2年・菅田夏央さんが学生を代表して感謝の意とともに医学を学ぶ強い志が述べられました。

最後に、故人の冥福を祈り、参列者全員が白菊を祭壇に供え、降幡睦夫医学科長の挨拶で式典は厳粛に終了しました。

*121名のご献体について

100名：系統解剖（解剖学実習）

（平成26年10月1日～平成29年9月末日）

21名：病理解剖

（平成28年10月1日～平成29年9月末日）



追悼の言葉

学生代表 医学科2年生 菅田夏央

本日、高知大学医学部の学生を代表いたしまして、御献体くださいました方々と御遺族の方々に謹んで追悼の言葉を申し上げます。

はじめに、生前、献体の意思表示をしてくださった方々、ならびにその意思を尊重してくださいました御遺族の皆様にご心より敬意と感謝を申し上げます。

御献体は私たちに“つなぐ”ことを教えてくださいました。

第一に、医学の道を繋いでくださいました。解剖学実習の目的は人体の構造を総合的に理解することです。実習の前は、解剖する場所の神経や血管の走行、臓器・筋肉などの名前・位置を教科書で確認します。そこに示された図は理解しやすいように一部の臓器を取り除き、身体を部分的に平面で照会してあります。私たちは御献体の解剖を進めながら教科書で学んだことを確認し、全身を覆う神経や血管とともに重なり合う多くの臓器が一つの系をなし生命を営んでいることを実感するのです。実践的な医学の勉強は御献体なしでは成り立たず、医療の発展には繋がりません。御献体は現在と将来の医学を結ぶだけでなく未来の人類の生命をつないでいます。

また、私たちはチームで実習を行います。実習前の御献体・解剖に対する思いは学生それぞれで違います。緊張感、不安、学ぶ意欲は共通していても一人一人が御献体に向き合います。しかし、協力して実習を進めていくうちに知識の共有だけでなく、その御献体への感謝や尊敬の気持ちを共有していることに気づきます。共に分かち合うことで、将来医療チームとして働く現場に自分を重ね合わせることができます。私たちがチームとしてつないでくださるのです。生前、ご家族や色々

な方々と関わりをもち、人々を繋いでいらしかったように御献体を通して今もこれからも人々をつないでくださいます。

献体するという事は、自分の死と向き合うことであり、それは同時に自分の生と向き合うことではないでしょうか。自分の生と向き合うことは、生きることを前向きに捉え、一生懸命生きていくことです。御献体くださった方々は、お一人お一人生きる意味を見つけ、一生懸命生きたのだと思います。私たちはその大切な命と意思を受け継ぎ、未来の患者様に役立てなければなりません。解剖学実習は単なる知識の習得の時間ではなく、御献体が残してくださった思いを一つ一つ受け止めていく時間と考えます。この貴重な学習体験を決して無駄にすることなく、御献体という形で与えてくださった皆様に敬意と感謝を込め、私たちは今後も勉学に励むことを誓います。

最後に、御献体くださった方々のご冥福と御遺族の皆様のご健康とご多幸をお祈りして、追悼の言葉とさせていただきます。

平成29年10月24日



「KMSリサーチミーティング」

医学部看護学科准講会 副会長 松岡 真里
(看護学科 臨床看護学講座 小児看護学)

高知大学医学部准教授講師会は、高知県内の大学・研究機関で行われている医学・医療に関わる研究に関して、発表、意見交換を行い、新たなアイデア、連携を創出することを目的として、KMSリサーチミーティングを主催しています。

平成29年度は、平成30年2月14日(水)・15日(木)の両日に開催されました。今年も、医学科、看護学科をはじめ附属病院などから、55演題が集まりました。両日とも、たくさんの方が会場に足を運んでくださり、ポスター前では活発な意見交換が行われていました。今年も、基礎研究から臨床研究まで、昨年にも勝りトップレベルの研究成果が報告されました。また、昨年同様、医学部先端コースの学生の研究や、看護学科4年生が一年間かけて真摯に取り組んできた卒業研究論文の発表が複数ありました。授賞式で、脇口宏学長が、若い研究者の育成の必要性についてお話くださいました。KMSリサーチミーティングは、高知大学の学生をはじめ、若い研究者の活躍を目にする機会となり、全体の活性化につながることを感じ

ました。今後は、医療を必要とする方々への貢献につながるよう、研究成果を論文としてまとめ、発信して欲しいと思います。

今年も、本会の開催にあたり、高知大学学長、医学部長、医療学系長、学科長、医学部附属病院長をはじめ、医学部教授会、高知大学医師会、医学部同窓会、看護学科同窓会、豊仁会、高知信用金庫安心友の会など、多くの皆様のご支援とご協力を頂き、優秀な演題に対して表彰を行うことができました。今年も、最優秀章を受賞した薬理学講座の新武享朗先生をはじめ計14名の方が受賞されました(以下、「第17回KMSリサーチミーティング受賞者一覧」参照)。

医学部准教授講師会は、会員相互の親睦と連絡の円滑をはかるとともに、医学・看護学教育や研究および診療や看護実践への協力を通して、今後も本学の発展に努めて参ります。今後とも、皆様方からのなお一層のご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



第17回 KMS リサーチミーティング受賞者一覧

受賞名	受賞者	所属	発表演題
最優秀賞	新 武 享 朗	薬理学講座	M2ミクログリア細胞内亜鉛はarginase-1発現を制御する
優秀賞 (4名)	橋 田 裕美子	微生物学講座	皮膚におけるメルケル細胞ポリオーマウイルス量と発がんとの関連性について
	樋 口 琢 磨	分子生物学教室	非アルコール性脂肪肝炎モデルマウスの肝臓において発現増加する二本鎖 RNA結合タンパク質 NF90の機能解析
	青 山 文	麻酔科学・ 集中治療医学講座	Exercise-induced Hypoalgesia に及ぼす加齢の影響 - 高齢ラットでの検討 - Effects of aging on Exercise-induced Hypoalgesia in aged rats.
	笹 部 衣 里	歯科口腔外科学 講座	Ephrin-B2からのリバースシグナルは口腔扁平上皮癌の進展およびリンパ節転移を促進する
奨励賞 (5名)	垣 内 綾 乃	医学部附属病院 薬剤部	NAFLD・NASHを含む代謝性肝障害合併糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬の多面的効果
	清 水 翔 吾	薬理学講座	ストレス反応性脳内神経伝達物質アンジオテンシンIIは排尿反射の亢進を惹起する
	中 山 孟 士	医学科学生 泌尿器科学教室	光線力学治療の臨床応用を目指して ～膀胱癌における試み～
	中 嶋 安 曜	老年病・ 循環器内科	Long-term Outcome in Patients with Sarcomere Gene Mutation among Japanese Hypertrophic Cardiomyopathy Populations
	S u o Z o u	薬理学講座	Endogenous hydrogen sulfide can function as a relaxation factor in the rat bladder and prostate
安心友の会 特別賞	坂 本 修 士	分子生物学教室	骨格筋において過剰発現した二本鎖RNA結合タンパク質NF90-NF45は白筋を低下させる
医学部 同窓会賞	廣 橋 健太郎	外科学 (外科2) 講座	Photothermal ablation of lung cancer by low power near-infrared laser and topical injection of Indocyanine Green; A preliminary animal study
	馬 場 裕 一	老年病・ 循環器内科	Protective Effects of the Mechanistic Target of Rapamycin against Excess Iron and Ferroptosis in Cardiomyocytes
看護学 同窓会賞	荒 木 健一郎	看護学科4年生	The experience and feeling of foreign residents of Kochi in living a healthy life in the community

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017 高知(RFLJ)」の実施について

RFLJ 実行委員会委員（病院機能強化戦略推進室） 楠 瀬 伴 子

11月3日（金）12：00から4日（土）11：30の2日間にわたり、日本対がん協会、リレー・フォー・ライフ in 高知実行委員会主催の「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017 高知」が、高知大学医学部グラウンドで開催されました。

今年の参加は40チーム1,500人、2日間の延べ人数で2,300人の参加がありました。高知大学医学部附属病院チームは34名の参加登録でしたが、他チームで参加している本院の医療職員も多く見かけました。高知大学としては他に、看護学科教員ズ・医学部学生チームの参加がありました。

オープニングセレモニーでは、松浦喜美夫実行委員長の開会の言葉、垣添忠生日本対がん協会会長の主催者挨拶、本学の本家孝一医学部長と尾崎正直高知県知事の挨拶の後、リレーウォークがスタートしました。にこやかに、元気に歩みを開始し、ステージでは、がん啓発の講演会・紙芝居・座談会など多くのイベントが実施され、ステージ前には多くの方が集まっていました。日没後は、会場の照明や音を消して、ルミノリエバッグ・「HOPE」の文字のキャンドルが燈るグラウンドを静かに歩きました。

ルミノリエセレモニーでは、参加者全員が歩み

を止め、がんで亡くなられた方々を追悼した後、リレーウォークは一晩中続けられました。ファイナルラップには、脇口宏高知大学長も参加しました。



ルミノリエバッグの点灯

クロージングセレモニーでは、本院チームも24時間タスキを繋ぐことができたとして表彰状を頂きました。脇口学長から挨拶が行われ、本年も本院がサバイバー記念作品を頂きました。

前日から会場となるグラウンド清掃、机や椅子の準備や片付けなど大変な作業でしたが、手伝いの学生さんたちの若いパワー、リレーウォークではサバイバーの方々から大きなパワーを頂きました。そして、チームテントに訪れて下さった方々と鍋を囲み、話に花が咲きました。がんばった以上に得られたものは大きかったと感じています。



ファイナルラップ(学長と共に)

〈資料〉

◆平成29年度入学試験

平成29年度の医学部入学試験について、医学部は、AO入試Ⅰが平成28年9月3日(土)に1次、平成28年10月11日(火)～21日(金)に2次の試験が実施され、推薦入試Ⅱが平成28年12月14日(水)～16日(金)に、前期日程試験が平成29年2月25

日(土)・26日(日)に実施された。看護学科は、推薦入試Ⅰが平成28年11月12日(土)に、前期日程試験が平成29年2月25日(土)に、後期日程試験が平成29年3月12日(日)に実施された。

志願者・受験者・入学者数

年度	学部 学科	志願者 数	受験者 数	入学者 数	入 学 者 の 内 訳					
					県内	県外	男	女	卒見込者	既卒者等
29	医学部 医学科	人 562 男 329 女 233	人 530 男 311 女 219	人 110 男 69 女 41	人 34 男 17 女 17	人 76 男 52 女 24	人 69	人 41	人 35	人 75
	医学部 看護学科	人 203 男 14 女 189	人 150 男 14 女 136	人 60 男 3 女 57	人 26 男 2 女 24	人 34 男 1 女 33	人 3	人 57	人 56	人 4

年度	学部 学科	志願者 数	受験者 数	入学者 数	入 学 者 の 内 訳					
					県内	県外	男	女	卒見込者	既卒者等
28	医学部 医学科	人 563 男 359 女 204	人 503 男 318 女 185	人 110 男 77 女 33	人 31 男 16 女 15	人 79 男 61 女 18	人 77	人 33	人 26	人 84
	医学部 看護学科	人 273 男 34 女 239	人 176 男 23 女 153	人 60 男 10 女 50	人 29 男 4 女 25	人 31 男 6 女 25	人 10	人 50	人 51	人 9

年度	学部 学科	志願者 数	受験者 数	入学者 数	入 学 者 の 内 訳					
					県内	県外	男	女	卒見込者	既卒者等
27	医学部 医学科	人 705 男 484 女 221	人 518 男 333 女 185	人 110 男 85 女 25	人 28 男 18 女 10	人 82 男 67 女 15	人 85	人 25	人 35	人 75
	医学部 看護学科	人 247 男 23 女 224	人 175 男 16 女 159	人 60 男 3 女 57	人 20 男 0 女 20	人 40 男 3 女 37	人 3	人 57	人 52	人 8

◆平成29年度学生数

学部学生

平成29年5月1日現在

学科	医 学 科							看 護 学 科					合 計
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	計	
男	72	92	102	78	71	74	489	3	11	3	8	25	514
女	41	35	30	29	42	35	212	58	51	64	57	230	442
計	113	127	132	107	113	109	701	61	62	67	65	255	956

大学院学生

平成29年5月1日現在

課程 専攻	博士課程					修士課程						合計
						医科学専攻			看護学専攻			
	1	2	3	4	計	1	2	計	1	2	計	
男	9	16	23	38	86	5	10	15	0	0	0	15
		(2)	(1)		(3)		(1)	(1)				(1)
女	6	6	6	21	39	7	9	16	16	25	41	57
		(1)		(1)	(2)	(1)		(1)				(1)
計	15	22	29	59	125	12	19	31	16	25	41	42
		(3)	(1)	(1)	(5)	(1)	(1)	(2)				(2)

備考 ()は、外国人留学生数で内数

◆医師国家試験合格状況

回数及び 実施年	卒業生	受験者			合格者			合格率			総合 順位	国立大学 順位
		新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 %	既卒 %	計 %		
第77回 昭和59年	第1期生 97名	97	—	97	97	—	97	100.0	—	100.0	1 / 76	1 / 39
第79回 昭和60年	第2期生 85名	85	—	85	82	—	82	96.5	—	96.5	8 / 76	5 / 39
第80回 昭和61年	第3期生 105名	105	3	108	99	2	101	94.3	66.7	93.5	18 / 79	14 / 42
第81回 昭和62年	第4期生 89名	89	7	96	83	5	88	93.3	71.4	91.7	28 / 80	22 / 43
第82回 昭和63年	第5期生 107名	106	8	114	103	5	108	97.2	62.5	94.7	6 / 80	4 / 43
第83回 平成1年	第6期生 101名	101	7	108	94	7	101	93.1	100.0	93.5	15 / 80	9 / 43
第84回 平成2年	第7期生 91名	91	7	98	87	7	94	95.6	100.0	95.9	4 / 80	2 / 43
第85回 平成3年	第8期生 99名	99	4	103	86	2	88	86.9	50.0	85.4	49 / 80	35 / 43
第86回 平成4年	第9期生 101名	101	15	116	94	10	104	93.1	66.7	89.7	19 / 80	12 / 43
第87回 平成5年	第10期生 101名	100	11	111	92	9	101	92.0	81.8	91.0	44 / 80	29 / 43
第88回 平成6年	第11期生 95名	94	11	105	92	6	98	97.9	54.5	93.3	11 / 80	8 / 43
第89回 平成7年	第12期生 101名	101	8	109	97	4	101	96.0	50.0	92.7	17 / 80	9 / 43
第90回 平成8年	第13期生 82名	82	9	91	80	7	87	97.6	77.8	95.6	17 / 80	8 / 43
第91回 平成9年	第14期生 95名	94	4	98	88	0	88	93.6	0.0	89.8	39 / 80	22 / 43
第92回 平成10年	第15期生 101名	101	10	111	91	5	96	90.1	50.0	86.5	66 / 80	39 / 43
第93回 平成11年	第16期生 97名	97	16	113	85	10	95	87.6	62.5	84.1	52 / 80	36 / 43
第94回 平成12年	第17期生 86名	86	18	104	79	7	86	91.9	38.9	82.7	34 / 80	23 / 43
第95回 平成13年	第18期生 92名	92	18	110	84	13	97	91.3	72.2	88.2	63 / 80	42 / 43
第96回 平成14年	第19期生 97名	97	13	110	93	9	102	95.9	69.2	92.7	33 / 80	21 / 43
第97回 平成15年	第20期生 89名	89	7	96	81	4	85	91.0	57.1	88.5	54 / 80	31 / 43
第98回 平成16年	第21期生 101名	101	11	112	96	6	102	95.0	54.5	91.1	32 / 80	21 / 43
第99回 平成17年	第1期生 98名	98	10	108	92	5	97	93.9	50.0	89.8	45 / 80	26 / 43
第100回 平成18年	第2期生 99名	99	10	109	90	7	97	90.9	70.0	89.0	53 / 80	30 / 43
第101回 平成19年	第3期生 90名	90	12	102	83	5	88	92.2	41.7	86.3	55 / 80	35 / 43
第102回 平成20年	第4期生 88名	88	13	101	81	5	86	92.0	38.5	85.1	71 / 80	41 / 43
第103回 平成21年	第5期生 90名	90	13	103	82	8	90	91.1	61.5	87.4	67 / 80	40 / 43
第104回 平成22年	第6期生 90名	90	14	104	82	8	90	91.1	57.1	86.5	65 / 80	42 / 43
第105回 平成23年	第7期生 97名	96	13	109	89	7	96	92.7	53.8	88.1	55 / 80	32 / 43
第106回 平成24年	第8期生 93名	92	15	107	87	9	96	94.6	60.0	89.7	51 / 80	25 / 43

回数及び 実施年	卒業生	受験者			合格者			合格率			総合 順位	国立大学 順位
		新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 名	既卒 名	計 名	新卒 %	既卒 %	計 %		
第107回 平成25年	第9期生 88名	88	12	100	70	6	76	79.5	50.0	76.0	79/80	43/43
第108回 平成26年	第10期生 101名	99	22	121	89	16	105	89.9	72.7	86.8	73/80	42/43
第109回 平成27年	第11期生 100名	100	19	119	94	8	102	94.0	42.1	85.7	76/80	42/43
第110回 平成28年	第12期生 109名	109	15	124	102	7	109	93.6	46.7	87.9	71/80	40/43
第111回 平成29年 <small>(併年規)</small>	第12期生 109名	114	15	129	107	10	117	93.9	66.7	90.7	36/80	23/43
合計	3,270名	3,261	370	3,631	3,031	219	3,250	-	-	-	-	-



◆保健師・看護師国家試験合格状況

卒業生	保健師						看護師												
	回数及び実施年		受験者		合格者		合格率		回数及び実施年		受験者		合格者		合格率				
	新卒	既卒	名	計	新卒	既卒	名	計	新卒	既卒	%	計	新卒	既卒	名	計	新卒	既卒	%
第1期生 62名	62	—	62	47	—	47	75.8	—	75.8	第88回 平成14年	1	—	51	50	—	50	98.0	—	98.0
第2期生 73名	73	12	85	81	10	81	97.3	83.3	95.3	第89回 平成15年	1	1	63	60	1	61	96.8	100.0	96.8
第3期生 66名	66	1	67	66	0	66	100.0	0.0	98.5	第90回 平成16年	2	2	58	53	1	54	94.6	50.0	93.1
第1期生 64名	64	2	66	60	0	60	93.8	0.0	90.9	第91回 平成17年	4	4	58	54	3	57	100.0	75.0	98.3
第2期生 74名	74	3	77	77	2	59	77.0	66.7	76.6	第92回 平成18年	1	1	65	62	0	62	96.9	0.0	95.4
第3期生 66名	66	11	77	76	11	76	98.5	100.0	98.7	第93回 平成19年	3	3	60	57	1	58	100.0	33.3	96.7
第4期生 68名	68	3	71	69	2	69	98.5	66.7	97.2	第94回 平成20年	2	2	60	57	1	58	98.3	50.0	96.7
第5期生 69名	69	1	70	69	1	69	98.6	100.0	98.6	第95回 平成21年	2	2	61	58	1	59	98.3	50.0	96.7
第6期生 64名	64	—	64	60	—	60	93.8	—	93.8	第96回 平成22年	1	1	56	54	0	54	98.2	0.0	96.4
第7期生 73名	72	4	76	70	2	72	97.2	50.0	94.7	第97回 平成23年	2	2	66	64	1	65	100.0	50.0	98.5
第8期生 66名	66	2	68	67	2	67	98.5	100.0	98.5	第98回 平成24年	1	1	59	58	1	59	100.0	100.0	100.0
第9期生 65名	65	2	67	67	2	67	100.0	100.0	100.0	第99回 平成25年	—	—	57	54	—	54	94.7	—	94.7
第10期生 71名	70	—	70	68	—	68	97.1	—	97.1	第100回 平成26年	3	3	64	58	2	60	95.1	66.7	93.8
第11期生 72名	72	2	74	74	2	74	100.0	100.0	100.0	第101回 平成27年	4	4	67	60	4	64	95.2	100.0	95.5
第12期生 70名	54	1	55	54	1	55	100.0	—	100.0	第102回 平成28年	3	3	63	58	2	60	96.7	66.7	95.2
第13期生 66名	42	—	42	39	—	39	92.9	—	92.9	第103回 平成29年 (昨年度)	3	3	59	56	3	59	100.0	100.0	100.0
1,089名	1,047	44	1,091	994	35	1,029	—	—	—	合計	32	32	967	913	21	934	—	—	—

編集後記

南国高知は、新緑が目にも心地よい季節となって参りました。

高知大学医学部では、来る4月より、新医学部長および新病院長による新たな歩みが始まります。そこでまず、このお二人の先生方に、就任にあたっての熱い抱負を示していただきました。

次に、本号の特集記事として、最先端の技術と科学の融合により低侵襲高度な治療を行う「ハイブリッド手術室」、日本初の本格的な特殊な光を用いた診断や治療を行う「光線医療センター」を取り上げさせて頂きました。いずれも昨年4月に新たに高知大学医学部附属病院に開設された「高知発の先端医療」の拠点といえます。

そして、特集記事の他にも、新たに就任された教授からのご挨拶、学生防災訓練の

実施について、留学体験、よさこい祭り、南風祭、さらには課外活動や全国学会での活躍など、高知大学で学び育つ学生諸君の日々の活動、それを支える同窓会の取り組みなど、いずれも、まさに高知大学医学部と学部学生の“今”を感じていただけたと思います。

おこうだよりでは、次号も、高知大学医学部の、熱く、楽しく、元気いっぱいのお話を、読者のみなさまにお伝えしていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿を執筆していただいた方々、編集委員の方々、学生課職員の方々に厚くお礼を申し上げます。

おこうだより編集委員会委員長
井上 啓史

編集 井上 啓史、降幡 睦夫、小林 道也、阿波谷敏英、古宮 淳一
森木 妙子、今村 潤、山崎 直仁、瀧田佳代子
発行 高知大学医学部おこうだより編集委員会
所在地 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL(088)866-5811(代)
発行日 平成30年3月
印刷 有限会社 三宮印刷 TEL(088)833-3412

